

⑱ 公開特許公報 (A) 昭64-43141

⑯ Int.Cl. ⁴ A 01 G 9/14 // F 16 B 13/02 5/12	識別記号	府内整理番号 L-6852-2B J-7416-2B Q-8714-3J	⑰ 公開 昭和64年(1989)2月15日 審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)
---	------	---	--

⑲ 発明の名称 園芸施設におけるプラスチックフィルムの取り付け方法

⑳ 特願 昭62-198997

㉑ 出願 昭62(1987)8月11日

㉒ 発明者 薬師輝雄 東京都江東区木場1丁目5番1号 株式会社ピーエルピー
内

㉓ 出願人 株式会社 ピーエルピー 東京都江東区木場1丁目5番1号

㉔ 代理人 弁理士 竹内守

明細書

(従来の技術)

1. 発明の名称

園芸施設におけるプラスチックフィルムの取り付け方法

2. 特許請求の範囲

線材を用いて構成された園芸施設のフレームにプラスチックフィルムを包被するに際し、前記フレームの長手方向の両側縁の線材の所定の位置に、中空らせん状成形体をねじ込み、嵌押周設させ、プラスチックフィルムの側縁端をこの中空らせん状成形体に当たがいその上から、長手方向に嵌入口を設けた円筒状嵌着部を有する固定具を嵌着させ固定することを特徴とする園芸施設におけるプラスチックフィルムの取り付け方法

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は園芸施設等において用いられるフレームにおけるプラスチックフィルムの取り付け方法に関する。

近時農業の近代化とともに施設園芸が盛んとなり、特に果実を収穫する園芸例えば葡萄の栽培等においては一定の時期にはプラスチックシートを以て包被し雨水の接触を遮断し、病気の発生を防ぐことが行なわれている。

又、葡萄栽培を例にとって述べれば、近時はその労力の消費を合理化するために、第1図に示すように支柱(図示せず)で支持された上部には△形を構成する支持線1を張りめぐらし、これに葡萄の主幹を立ち上らせて、その枝2は直線状を主とし、その両側のある範囲Wに留まるようし字状に整えて葡萄棚を構成し育成している。

かくすることによってその作業範囲はW+αの幅で直線状であり、能率的に作業をなし得るものである。

而して、このような葡萄棚にプラスチックフィルムを被せるには、前記W+αの範囲に上面に第2図に示すが如き断面半円状に構成されたトンネルメッシュのフレームを配置し、この上にプラス

チックフィルムを被せて行なわれる。

即ち、このフレームは半円状(弓状)に屈曲されたアーチ用線材3とその複数個を一定の間隔し、毎に並列に配置し、これを接続する複数条の直線状線材4とからなり、相互に溶接その他の手段により一体化されてトンネル状のフレームを構成している。

プラスチックフィルムはこのトンネル状フレームの上面を覆う幅のフィルムを用意しその長手方向に展張して、取り付ける。

従来はその取り付けに当たり、プラスチックフィルムの長手方向の側縁をフレームの両側端に近い位置の直線状線材4に、例えば洗濯バサミの如きものを以て挟持し、かつプラスチックフィルムの上面を押さえ紐でスパイラル状にくくりつけて構成することが行なわれていた。

(発明が解決すべき問題点)

しかるにこの方法によると、プラスチックフィルムの保持状態は必ずしも強固ではなく、かつ又押さえ紐をかける作業はなかなか面倒なため、改

定具を用意し、両者の間にプラスチックフィルムの端部を挟んで嵌着固定することにより極めて簡単で信頼性もあり、取り外しも容易な固定化法である。本発明において用いられる中空らせん状成形体7の材料は金属、非金属を問うものではないがそのコストと耐久性の点から第3図(1)の如く亜鉛めっき鋼線5の複数条をらせん状に成形し、各条線相互を接合したもの、或いは第3図(2)の如く亜鉛めっき鋼テープ6をらせん状に成形したものは、その弾性もあり好ましいものと言える。

そしてこれらの取り付けに当たってはフレームの側端近くの取り付け用直線状線材に中空らせん状成形体の解放端から旋回させながらねじ込むことにより達成される。又、その外側に使用される嵌着固定具10はその一例を示すと第4図の如きものであり、第4図(3)に示すように縦方向に開口11を有する円筒状嵌着部12を有するもので、図ではその円筒状嵌着部12は主部12aと従部12bとが接続片13で結合され、かつ従部の先端には舌片14を設けてあり、円筒状部を押圧す

善が要望されていた。

その改善策の一つとして、例えばハウス栽培におけるチャック方式や、ペット方式を採用しようとすると、溝付受け材の重量がかなり大きく、かかる施設においては更に支柱を増加させなければならず、徒らにコストアップを来すというので採用できない。

又、前記フレームのプラスチックフィルムの取付部分に円管状の直線部材を取り付けてこれに嵌着固定具を組合せる案も考えられるが、その重量増加による支持柱増加の問題は前記と同様にして残存し採用できない。

本発明はかかる難点を解決し、軽量で引留、引外しが容易で、かつ信頼性のあるプラスチックフィルムの取り付け方法を目的とするものである。
(問題点を解決するための手段)

本発明の概要は、中空らせん状成形体をプラスチックフィルムの固定位置における直線状線材に周設しておき、かつ、この中空らせん状成形体の外径にはゞ等しい内径の円筒状嵌着部を有する固

ることにより強固な嵌着をなすとともに舌片14及び接続片13を持ち引き剥すことが容易に行なわれる。

なおここに用いられる材料も金属、非金属を問わないがポリエチレン、ポリプロピレンは接続するシートに仮に可塑剤があつても移行問題が少なく、彈性もあり廉価で反覆使用に耐えるので好ましい。

(実施例)

本発明の実施例を述べれば以下のとおりである。

幅120cm、中央部の高さ50cm弓状の鋼線を複数個用意し、これを20cm間隔になるように、直線状鋼線(径0.32cm)を溶接々続してフレームを作成し、これに幅185cmのポリエチレンフィルムを被せ、弓状の鋼線の間で前記フィルムの端部を前記嵌着固定具により引き止める。

引き止め状態の構造を示せば第5図のとおりで、プラスチックフィルム15の端部は直線状線材4(図では下から2番目)の上に周設された中空らせん状成形体(図示せず)の上に巻かれるように

して、嵌着固定具10により嵌着されて保持される。

この嵌着固定具は各アーチ用線材間の1スパンに1ヶ用いてもよいが極々テストの結果は、その設計によっても異なるが1スパンおきもしくは2スパンおき、或いは2~3スパン嵌着後3スパンおいて2~3スパン嵌着させるといった程度でも十分であり、風によって剥がされる心配もなかった。

〔発明の効果〕

本発明によれば、軽量な中空らせん状成形体とこの外径に適合した内径の嵌着部を有する嵌着固定具を適當数用意するのみで、非常に簡単な押圧嵌着でプラスチックフィルムをトンネルフレームに固定することができ、かつまた、プラスチックフィルムを取り外す際の作業も容易であり、更に関係資材が全体に小型化されてセットとして運搬できるのでトラックの行かないどんな小さな島や奥地でも、これを利用することが可能であり栽培産業の伸長に多大の寄与をなしえるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、葡萄栽培における支持線と枝の張り方のモデルを示す説明図。

第2図は、これに用いられるトンネルメッシュのフレームの斜視図。

第3図は、中空らせん状成形体の構造例を示す斜視図。

第4図は、嵌着固定具の一例を示し、

(1)は上面図、(2)は側面図、(3)はD-D線断面図、第5図はプラスチックフィルムの固定部分の構造を示す一部切裁の斜視図である。

3:アーチ用線材 4:直線状線材

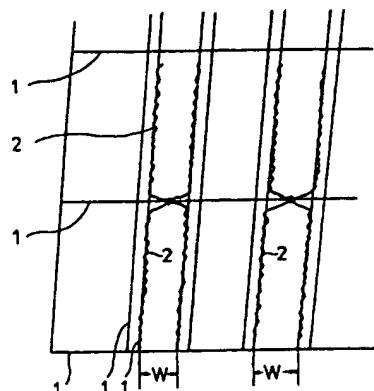
7:中空らせん状成形体

10:嵌着固定具

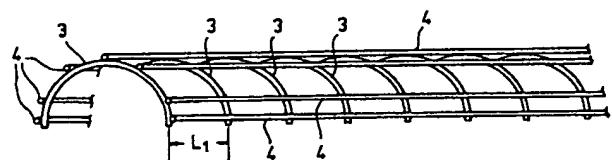
15:プラスチックフィルム

代理人弁理士竹内守

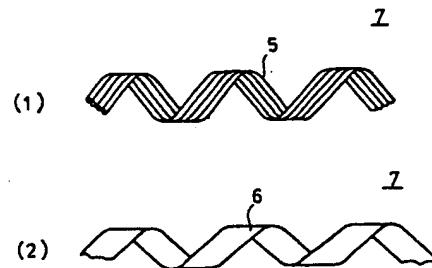
第1図



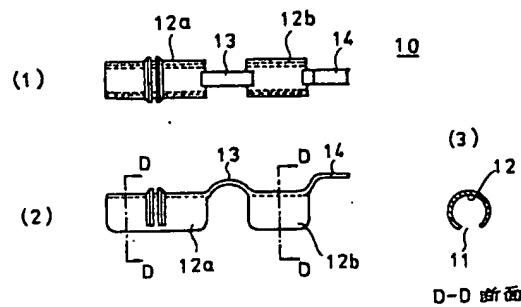
第2図



第3図



第4図



手 続 捕 正 (自発)

昭和 62 年 11 月 9 日

特許庁長官 小川 邦夫殿

1. 事件の表示

昭和 62 年特許願第 198997 号

2. 発明の名称

園芸施設におけるプラスチックフィルムの取り付け方法

3. 捕正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 東京都江東区木場一丁目 5 番 1 号

名 称 株式会社 ピーエルピー

代表者 柏崎 一男

4. 代理人 〒101

居 所 東京都千代田区内神田二丁目 15 番 13 号

南部ビル 電話 03-252-5055

氏 名 (7413)弁理士 竹内 守

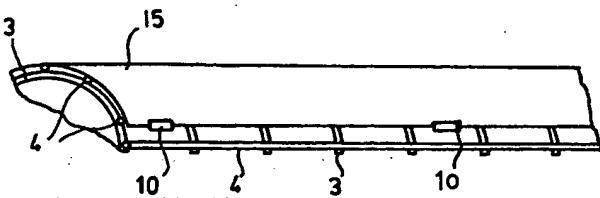
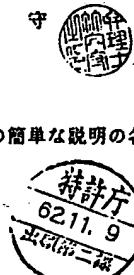
5. 捕正命令の日付 自発

7. 捕正の対象

明細書の発明の詳細な説明、図面の簡単な説明の各欄
及び 図面(第 6 図)

8. 捕正の内容の欄

別紙記載のとおり



- 明細書第 7 頁 2 行目と 3 行目の間に下記の文を挿入する。
「なお、第 6 図には直線状線材 4 にらせん状成形体を嵌めて、その上にプラスチックフィルム 15 の端部を嵌着固定具 10 で固定した状態の一例が示してあり、(イ) の一部切裁正面図(ロ) のその側面図より詳細が理解されるであろう。」
- 明細書 8 頁 11 行目「である」を削除する。
- 明細書 8 頁 12 行以下に次の文を挿入する。
「第 6 図はプラスチックフィルムの取り付け状態を示し、(イ) は一部切裁の正面図、(ロ) はその側断面図である。」
- 図面として別紙第 6 図を加入する。

